

新人議員 有川康二郎編集長による

白山市政だより Vol.3

新人議員ならではの視点により市議会や議員活動についての報告だけでなく、暮らしに役立つ情報などについても発信していきます！

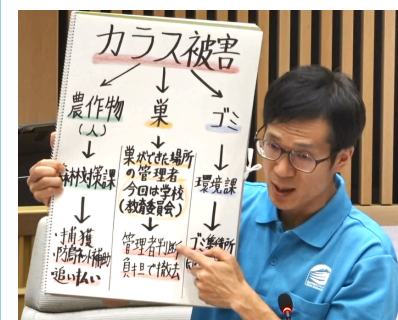
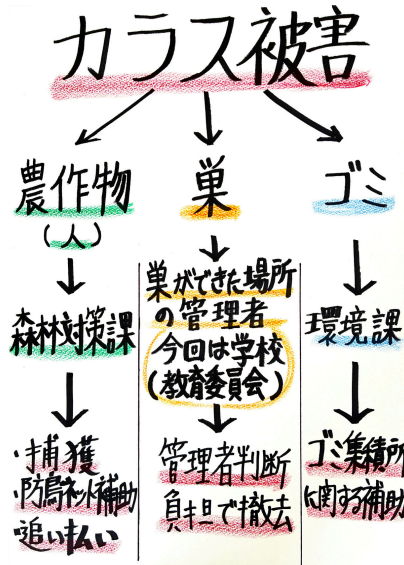
カラスによる被害防止対策の強化を求める

カラス被害・対策の現状

北陽小学校周辺では近年、児童や住民がカラスに襲われる被害が相次いでいる。頭部を突かれたり、自転車走行中に襲われて転倒し、出血する事例も報告されている。学校敷地内の木や夜間照明、体育館の屋根などにカラスの巣が確認され、市への問い合わせに対し、学校は「修繕費で巣を撤去する」よう指導を受けた。近隣の光野中学校でも同様の被害が発生していたため、両校は同一業者に依頼して費用を抑えつつ撤去作業を実施した。しかし、巣の撤去後も周辺で被害は続いたため、市は職員を派遣し爆竹を使った追い払いを行った。

市の担当課に確認すると、森林対策課は主に農作物被害の対策を担い、捕獲や防鳥ネットへの助成、人的被害が出た場合の追い払いの対応も実施している。今回は爆竹での追い払いを担当した。巣の撤去に関しては、巣のできた場所の管理者が担うことになっており、今回、学校は教育委員会に相談して対応した。環境課は主にゴミ問題に対応しており、今回は対応しなかった。この経験から、市民がカラス被害について相談した際に「たらい回し」になる可能性が懸念され、担当課も課題として認識していた。相談窓口が一本化されておらず担当課が多岐にわたるといった「縦割り行政の課題」が浮き彫りとなった。また、北陽小学校では過去2年間巣の撤去を試み教育委員会に相談していたが、誤った回答により実施できなかった。専門部署が対応していれば、こういった事態には至らなかったと思われる。巣のできた場所の管理者に全てを委ねる現在のルールでは、効果的な対策は困難である。

巣の撤去は対症療法であり、根本対策はカラスの餌を断つことである。①ゴミ集積所の適正な管理、②家庭菜園などの放置された作物の処理、③無責任な餌付けの禁止など、地域住民の理解と協力が不可欠である。行政が市民に対して積極的な情報提供や啓発活動を行うことが重要である。



質問・提案

カラス被害に関する住民相談の窓口を統一し、情報を一括で集約する仕組みにはどうか。人的被害発生時の巣撤去は、市が主体的に行う体制にできないか。広報はくさんなどを通じ、市民にカラス対策の周知と協力を呼びかけてはどうか。

回答

窓口の統一は難しいが、問題の解決を図るため、(仮称)鳥獣被害対応マニュアルを作成し、関係課が適切に対応できる指針を示す。環境省も、カラス対策は市民及び地域ぐるみで取り組むことが大きな効果を生むと推奨しており、広報はくさんやホームページで周知を図る。



大藪 清史 産業部長

なんでもお気軽にお問い合わせ下さい！

発行者 有川康二郎

〒924-0882 白山市八ツ矢町653-4
tel:070-1297-3804 mail:karimori1@gmail.com

ホームページ

有川こうじろう



※政務活動費を使用して広報誌を発行

ごあいさつ

清秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より市政へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

8月には、文教福祉常任委員会の行政視察として山形県を訪問いたしました。中でも山形市では、健康ポイント事業の先進的な取組について学ばせていただきました。この知見を、白山市で実施している「はくさんタニタ健康くらぶ」の事業改善に活かしてまいりたいと考えております。各視察先では、副委員長として締めのご挨拶の機会をいただき、感謝の意を伝えると共に白山市政への反映に向けての決意を述べさせていただきました。

白山市は新規事業に慎重な側面もございますが、議会において積極的に発言し、日頃から担当部署との意見交換を重ね、市政のさらなる発展に努めてまいります。

引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



山形県への行政視察にて

白山市議会議員 有川康二郎

トピックス

【要確認】感震ブレーカーの補助率が引き上げられました！

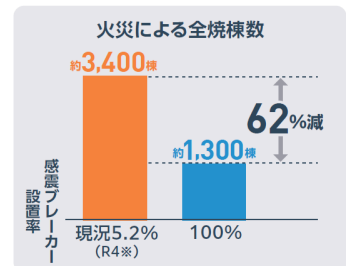
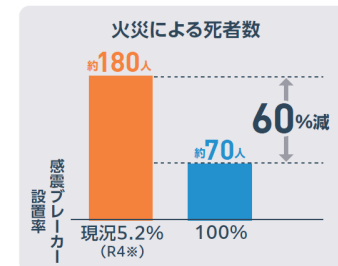
購入・設置費用の1/2 (県補助金) + 1/4 (白山市補助金) = 3/4

*詳しくは石川県および白山市のホームページでご確認下さい

感震ブレーカーで命を守る！

火災による死者数、6割減

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知して自動的に電気を止めることで、電気火災を防ぐ道具です。



※「防災に関する世論調査」(内閣府)

9月議会一般質問

白山市議会のホームページから動画でご覧いただけます



行政評価における事務事業評価の見直しを求める

行政評価における事務事業評価に課題あり

市役所には優秀な職員が揃っているにもかかわらず、運営面で課題が生じている背景には、行政の「仕組み」に問題があると考えられる。現役・OBを問わず、職員からは「スクラップ&ビルドが進んでいない」という声が寄せられている。これは、効果が薄い既存事業を廃止し、そこで確保した予算や人員を新たに有効な事業へ振り向ける取り組みが進んでいないことを意味しており、行政評価が十分に機能していない可能性を示している。

政策体系は、最上位に全体の方針や目的を定める「政策」があり、その下には具体的な方向性を示す「施策」が位置する。そして、各施策を実現するための具体的な行政手段が「事務事業」である。

行政評価において重要なのは、事務事業を毎年しっかりと振り返り、必要に応じて継続・改善・廃止を判断することである。白山市では総合計画を通じて事務事業の評価を行っているが、現状では今後事業を継続するか否かを判断するための項目が設けられていない。

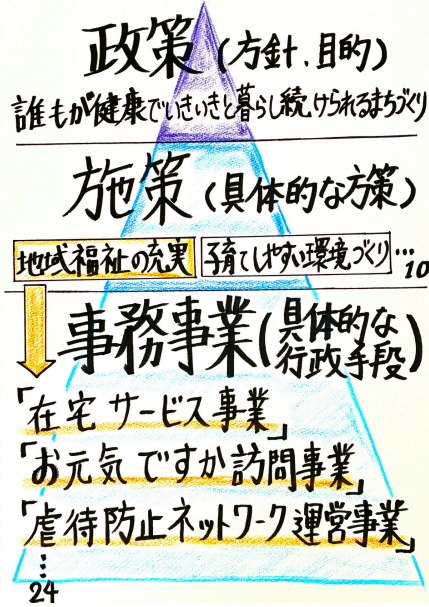


質問・提案

「スクラップ&ビルド」を実行するため、総合計画とは別に、部署単位で事務事業の成果や課題を丁寧に見直すべきである。そのため、現在の事務事業評価シートとは別に、事業ごとの詳細な評価シートを作成することを提案する。

回答

今後は、総合計画においても効率的にしっかりと評価し、市民にもわかりやすい形とするため、第3次総合計画の事業評価では今後の方向性に関する記載を含める方向で、現行様式の見直しについて検討していく。



業績評価指標 (KPI)				評価					
指標名	単位	目標値(R8)	実績(R5)	有	効	公	将	総合	評価理由
連絡件数	件/年	測定値	142	3	3	4	3	B	利用者が必要なサービスことができ、安心した継続が期待できる。
対応結果	—	適正	適正						
お元気ですか訪問事業実施数	件/年	実施	5,311	4	3	3	4	B	以前は配食サービスが主より身近な住民にとって、がしやすいよう、生活物りに切り替わってきてお更なる事業進捗が見込めるかと安心高齢者プラ
虐待防止ネットワーク運営委員会実施	回/年	3	3	3	3	3	3	B	度～令和8年度)、地域さラン(令和4年度～令和8
虐待防止研修会実施	回/年								施策であり、高齢者虐待



宮本 郁夫 企画振興部長

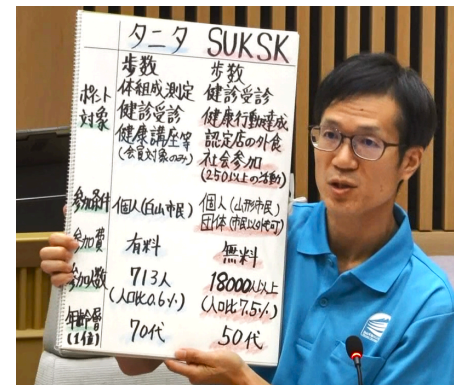
白山市のビジョンの一つである健康都市の具現化に向けて、はくさんタニタ健康クラブの計画策定を示せ

SUKSK vs はくさんタニタ健康クラブ

健康ポイント事業とは、住民の健康的な活動に対してポイントを付与し、ポイントを景品や商品券、地域通貨などに交換できる仕組みである。その先進事例である山形市の「SUKSK (スクスク)」と白山市の「はくさんタニタ健康クラブ」を比較する。

ポイント対象は、タニタの歩数や健診受診に加え、スクスクは自分で決めた健康行動の達成、認定店での外食、社会参加などもポイント対象となっており、対象活動は250以上(禁煙、減塩、ボランティア、スポーツ観戦など)もある。参加条件は、タニタの個人に対し、スクスクは個人だけでなく団体での参加も可能。参加費は、タニタが有料に対しスクスクは無料。結果として、参加人数はタニタが713人(人口比0.6%)に対してスクスクは18000人以上(人口比7.5%)と人口比の割合は10倍以上差があり、最多年齢層はタニタが70代に対して、スクスクは50代と若く、現役世代まで支援が行き届いている。

山形市長は「健康医療先進都市」をビジョンに掲げ、全庁的に取り組むよう指示し、全庁横断のプロジェクトチームを組織している。プロモーション活動も徹底しており、積極的に情報発信している。



質問

白山市のビジョンである「健康都市」の実現には全庁的な取組が必要である。具体的な施策を示せ。また、はくさんタニタ健康クラブの取組強化に向けた計画策定を示せ。

回答

今年度から他部署が横断的に携わるマムアップ事業をスタートさせる。これをきっかけに健康に関わる事業を全庁横断的に取り組む機運の醸成につなげたい。また、タニタ健康クラブについては関係部署で協議を行うほか、発展的な事業実施に向けた目標設定を早急に行う。新年度には、発展的な取組について示せるよう努める。

提案

人口の3.5%が動けば社会が変わるという3.5%ルールを参考にすると、白山市では最低でも4000人の会員数を目指すべきである。色々な事業を行うのも良いが、より効果的な事業に集約することも必要であり、タニタ健康クラブについても全庁横断的な事業とする必要がある。



田村 敏和 市長

